

佐々木禎子さん ～ 折り鶴（千羽鶴） ～ 平和の象徴

1945年（昭和20年）8月6日 午前8時15分、広島市に世界で初めて原子爆弾が投下されました。禎子さんは爆心地から1.7km離れた自宅で被曝しました。

また、その後に降った「黒い雨（放射能に汚染された雨）」にもかかりました。被曝から9年後の1954年8月の検査では異常はなく元気でした。同じ年の10月25日、小学6年生の秋の運動会でチームを1位に導いたとの記録が残っています。この日は、皮肉にも1年後の禎子さん自身の命日の日と同じです。

運動会以後（11月頃）、シコリが首のまわりにできはじめ、年が明けるとおたふく風邪みたいに頬が腫れ始めた。1月18日、2月16日にABCC（被爆傷害調査委員会、現在の放射線影響研究所）で検査を受け、かかりつけのお医者さんからお父さんに検査結果が伝えられました。その内容は、「亜急性リンパ腺白血病で、禎子さんはあと3ヶ月、長くて1年、生きることができない」との余命宣告でした。2月21日、広島赤十字病院（現在の広島赤十字・原爆病院）に入院した。

禎子さんが入院していた病院に、手紙と一緒にお見舞いとして贈られた折り鶴がきっかけで禎子さんは折り鶴を折り始めました。病院では、折り鶴で千羽鶴を折れば元気になる（病気が治る）と信じて鶴を折り始め、8月の終わり頃には1000羽を超える鶴を折っていたといわれています。

そして、10月25日の朝、禎子さんは危篤となり、お父さんから「何か食べたいものは？」と尋ねられ、禎子さんは「お茶漬けを食べたい」といい、家族が大急ぎで用意したお茶漬けとたくあんを一緒にふた口ほど口にした後、「お父ちゃん、お母ちゃん、みんなありがとう。」と呟き、最後の言葉となった。

1955年10月25日 午前9時57分、お医者さんから臨終（死亡）を告げられた。

お葬式の時、禎子さんが折った鶴を参列者に2、3羽ずつ配られ、棺に入れて欲しいと呼びかけられるとともに、遺品として配られました。

生前、禎子さんが願いを込めて鶴を折っていたというその思いは、同級生や他の人に引き継がれ、原爆の犠牲になったすべての子ども達への慰霊として、1958年5月5日（こどもの日）に「原爆の子の像」が平和記念公園に建てられました。

2013年10月に母校の広島市立幟町小学校に、2015年11月には禎子さんの親族と交流のあったトルーマン元大統領の大統領図書館に禎子さんの親族により、禎子さんが病床で折った折り鶴をそれぞれ1羽ずつ寄贈されています。

このように、折り鶴は、禎子さんが願いを込めて折ったことに端を発し、折り鶴は平和の象徴として、千羽鶴は平和、健康などさまざまな祈願成就として、今なお世界中で折られています。

